

日本企画計画学会第26回全国大会

システム創造思考法研究部会 2015年度研究発表大会プログラム

テ - マ	人間・創造・イノベーション
開 催 日	2015年9月5日(土曜日)
会 場	早稲田大学 早稲田キャンパス 11号館 9階 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1
主 催	日本企画計画学会東京支部 早稲田大学 システム創造思考法研究部会
共 催	日本ワークデザイン協会 日本企画計画学会本部

プログラム

時 間	早稲田大学早稲田キャンパス 11号館 9階 901教室 開場・受付 9:00~	
	総合司会： 星 明 (日本企画計画学会東京支部 副支部長)	
9:30-9:35	ガイダンス	
9:35-10:00	基調講演Ⅰ 新たな思考プラットホーム …哲学、アプローチ、道具	日比野省三 (日本企画計画学会会長、学術博士)
10:00-10:35	基調講演Ⅱ イノベーションを起こす種を見つける 手法としての思考法について	黒須誠治 (早稲田大学商学学術院教授、工学博士)
10:35-10:40	休 憩	
10:40-12:00	シンポジウム 「人間・創造・イノベーション」	司会進行： 天野明夫 (早稲田大学 WBS 研究センター特別研究員) パネリスト 日比野省三 (日本企画計画学会会長、学術博士) 黒須誠治 (早稲田大学商学学術院教授、工学博士) 桃井庸介 (リサーチ・研究大学 主席研究員) 松永譲治 (日本企画計画学会東京支部長)
12:00-13:00	休 憩 (日本企画計画学会会員はこの間総会)	
13:00-16:50	研究発表報告 (別頁参照) 第一会場：905教室 第二会場：912教室	
16:50-17:15	フリータイム 9階 901教室	コーディネーター 星 明 (日本企画計画学会東京支部 副支部長)
17:30-19:30	懇親会「イル・デ・パン」 所在地：〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 537 メゾン三晃 1F 連絡先：050-5788-1215	

(敬称略)

研究発表会場プログラム

	研究発表第1会場 905教室	研究発表第2会場 912教室
	会場コーディネーター 桃井庸介 (リーダーシップ研究大学 主席研究員)	会場コーディネーター 松永譲治 (日本企画計画学会東京支部長)
13:00	「目的とシステム（仕組み）を分けて考える」 星 明 (日本企画計画学会東京支部)	「岐路にたつ農業」 阿南修平 (竹田竹炭米研究会)
13:40	休憩	
13:45	「システム設計時のシステムの目的に関する一考察」 福徳貴朗 (神奈川大学)	「会社の育成」 江田 實 (IAIジャパン)
14:25	休憩	
14:30	「工学部学生教育における企画計画教育へのブレイクスルー思考の活用」 藤田素弘 (名古屋工業大学)	「知能システムとしてのランドルト環方式 e-ラーニング」 木下雄太 (北海道科学大学) 西川孝二 (北海道科学大学) 北守一隆 (北海道科学大学)
15:10	休憩	
15:25	「専門性と日常性の交差領域」 ～ブレイクスルー思考の「流通(るづう)」のために～ 今井 健 (名古屋市緑政土木局)	「レッドクイーンエフェクトを考慮したブレイクスルー思考」 青山ゆう子 (中央オフィスメーション) 廣田健一 (札幌医科大学) 北守一隆 (北海道科学大学)
16:05	休憩	
16:10	「システム設計におけるブリーフィングについて」 天野明夫 (大成建設)	「医療情報システムへのオープンソースソフトウェア利用 におけるさらなる可能性についての検討」 北守一隆 (北海道科学大学) 林靖明 (札幌医科大学) 廣田健一 (札幌医科大学)

発表報告要旨

「レッドクイーンエフェクトを考慮したブレイクスルー思考」

青山ゆう子（中央オフィスメーション）、廣田健一（札幌医科大学）、北守一隆（北海道科学大学教授）

イノベーションの創出としてレッドクイーンエフェクトがこれまで述べられており、具体的には、洞察力とスピードが関わると言われている。競合する企業が発生することにより、自社は競争に打ち勝つために新たなアイデアをいち早く生み出す必要があり、そのためには市場の動きを観察する洞察力も同時に重要である。それによりイノベーションの創出へつながり、市場における競争優位を維持することにつながる。ブレイクスルー思考は4つのフェーズをもとにして未来の特定解を創造するためのものであり、イノベーションに必要な洞察力を身に付けることが可能になると考える。本発表ではレッドクイーンエフェクトの視点からブレイクスルー思考について述べる。

「岐路にたつ農業」 阿南修平（竹田竹炭米研究会 座長）

現在農業は大きな岐路に立っていると思われる。米価の下落により、小作を引き受ける農家が減少し、今後は放棄地がさらに増えるものと思われる。発表者は、2013年6月に故郷に戻り、2014年に初めて稲作を行い、お米を生産した。これから歳をとっていく自分を考え、農作業の省力化、コスト削減を考え、それに合わせた農機具を揃えたのであるが、全く採算に合わないものになっている。このような高コスト農業に対応するため、既存の方法にとらわれず、消費者に好まれるお米を如何に生産して、高付加価値の商品を提供することができるか。発表者は、14年米の稲作経験を踏まえ、農業にブレイクスルーがあるのか、挑戦している。過去の踏襲ではなく、農業の目的は何か、主役はだれか、市場はどこか、農業ビジネスの大きな制約条件は何か、実践による検討結果を述べてみたい。

「システム設計におけるプリーフィングについて」 天野明夫（大成建設株式会社）

システム設計の過程で機能にこだわり機能を優先させて考えることはワークデザインの基本と言える。ワークデザイン流の思考法を建築の世界に適用しようとした時、設計者が設定した機能を、如何に周知し認知してもらえるかが大きな課題となっていたが、近年やっとプリーフィングとしてその職能やプロセスが認知されるに至った。

機能本位の設計が建築の世界でどのような課題を持っていたかを再度概観し、近年注目されてきたプリーフィングが、今後どのような役割を果たしつつあるのかを期待を込めて整理したい。

「専門性と日常性の交差領域～ブレイクスルー思考の「流通(るづう)」のために～」

今井 健（名古屋市緑政土木局参事（地域企画））

これまでブレイクスルー思考を通じて、①土木専門行政の地域特定解「まちかど活き域企画」の運営（2012年）、②ブレイクスルー思考と仏法の類似比較による日常的実践法の再定義（2013年）、③「問題解決の駆込み寺」としてのまちなか交流の場（2014年）などを探究してきた。これら三つの実践の中で共通し浮かび上がってきたキーワードは「専門性と日常性の交差領域」である。

どの分野においても専門の思考や方法が、日常の社会生活にどう生かされるのかは肝心の問題である。ブレイクスルー思考において、その思考と方法を日常的に広めていくための見通しと転換システムを探る。

「会社の育成」 江田 實（IAIジャパン 副理事長）

2000年に設立されたA社（eラーニング関係）は苦節15年、最近ようやく将来が明るくなったが、その間メンターとして社長を支えてきた私の経験を一般化して、BTTに基づいて、「成功する会社、意味のある会社を育てるのに必要なメンターのノウハウ」として私見をまとめてみた。

「知能システムとしてのランドルト環方式 e-ラーニング」

木下雄太（北海道科学大学博士課程）、西川孝二（北海道科学大学）、北守一隆（北海道科学大学教授）

データベースは、データが構造体（リレーション）として蓄積され、データベース操作言語（SQL）によって情報が取り出される。知識を扱うことを考えると、情報がまた構造体として蓄積されている必要がある。発表者らは、これまで学習者の理解度に合わせた、ランドルト環方式 e ラーニング（LRM）について提案しており、これは知識を取り出すための情報の構造体として考えることができる。本発表では、情報を取り出す機能として推論が関わることから知能システムとしてのランドルト環方式 e ラーニング（LRM）について述べる。

「医療情報システムへのオープンソースソフトウェア利用におけるさらなる可能性についての検討」

林靖明（札幌医科大学）、廣田健一（札幌医科大学）、北守一隆（北海道科学大学教授）

オープンソースソフトウェアは、ソフトウェアにおけるソースコードの仕様を公開しており、ユーザーは必要な機能、ソースコードを自由に組み合わせて情報システムを構築することが可能である。医療分野への利用、すなわち医療情報システムにおける PACS (Picture Archiving and Communication System)へのオープンソースソフトウェア利用を例として、ビジネスモデルの展開方法、各種法規制への対応、さらに企業情報システムとの違いなどから、今後の可能性についての検討を行う。

「目的とシステム（仕組み）を分けて考える」 星 明（日本企画計画学会東京支部 副支部長）

システム創造思考法とブレイクスルー思考。その両者の源流は、南カルフォルニア大学の故ジェラルド・ナドラー博士。彼はシステム工学の出身で、その主張は「目的とシステムを分けて考える」ことにあった。この主張は当然両思考にも受け継がれている。

目的とシステム（仕組み）を分けて考えるとどんな良い事があるか…その理由は創造性が飛躍的向上すること。

目的とシステム（仕組み）を分けて考えるとはどういうことか、それが思考の視点を変え、創造性を向上させるプロセスを事例を使ってご紹介します。両思考を学び始めたいとお考えの方が対象です。

「システム設計時のシステムの目的に関する一考察」 福德貴朗（神奈川大学経営学部非常勤講師）

ワークデザインは、数少ない演繹的なシステム設計手法として高く評価されている。その大きな特徴の一つは目的（機能）を目的-手段階層を逆にたどる目的（機能）展開によって、設計するシステムの目的を設定し、固定した上で理想システムを策定し、現実の制約条件を加えていく点である。しかし、設計前にシステムの目的を単一化・固定化し、それを前提にシステムを設計する点に関しては批判もある。本報告では、設計対象のシステムの目的をさまざまなシステム理論から捉えなおし、システムの目的を明確にして固定化することの意味を再考し、あらためてシステム設計の際のシステムの目的の役割について考え直す。

「工学部学生教育における企画計画教育へのブレイクスルー思考の活用」 藤田素弘（名古屋工業大学教授）

日頃、一定の条件が与えられた中での工学的理論の習得や計算問題を解かせることが多い学生に、条件をなくして、なにか新しいことを考えるように指示しても、数語の言葉をのぞいて全く出てこないか、すでに商品化されたものばかり出してくるなど、結構アイデアを出させるのも難しいものと感じることが多い。このとき、目的思考・未来志向で有用なアイデアを導き出すブレイクスルー思考はしっかり習得すれば、筋のよい発想力を身に着けるものと思われる。今回の発表では、このような学生の企画計画教育におけるブレイクスルー思考の導入事例として、マーケティングとの融合や目的展開の活用法や柔軟な企画発想法などの取り組みについて紹介する。

（研究発表者名五十音順、敬称略）